

日本生体医工学会 2020 年度第 4 回理事会議事録案

日時：令和 3 年 3 月 15 日(月) 14:00～17:00

会場：ME 試験事務局内 会議室 (CE コーポレーション)

<出席者>

理事長： 守本 祐司

副理事長： 木村 裕一

理事： 横澤 宏一、山家 智之、中島 章夫、椎名 毅 (兼 2021 年大会長)

<Web 出席者>

副理事長： 成瀬 恵治

理事： 川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、井村 誠孝、中島 一樹、
佐久間 一郎 (兼 関東支部長)、松村 泰志、原口 亮、福岡 豊、村垣 善浩、
塩澤 成弘、杉町 勝、

監事： 吉田 正樹、中沢 一雄

<オブザーバー・出席者>

幹事： 坪子 侑佑、木村 雄亮

事務局長： 磯山 隆

オブザーバー： 清水 久恵 (北海道支部長)、大城 理 (関西支部長)、
長谷川 純一 (東海支部長)

<欠席者>

理事： 坂田 泰史、黒田 知宏、

監事： 澤 芳樹

オブザーバー： 芳賀 洋一 (東北支部長)、石原 謙 (中国・四国支部長)、
杉原 伸宏 (甲信越支部長)、嶋津 秀昭 (北陸支部長)、家入 里志 (九州支部長)

<理事会議題>

0. 理事会成立の件 守本理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 19 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 2020 年度 第 3 回目理事会の議事録の承認【審議 A-2】 山家理事

2020 年度 第 3 回理事会議事録案の内容について、全会一致で承認された。

2. ME 試験について、全て中止とした場合の費用試算および感染対策を含めた 21 年

度予算案【審議 I】 中島 章夫理事

ME 試験事業について、会場費の見直し、及び感染対策を含めた予算案について報告された。

会場費について総額は 2300 万円となった。これは、大阪会場の人数の増加を想定し、会場数を増やしたことによる 400 万円の増加、その他の地方会場について、福岡が大学以外の施設の借入を決定したことによる 400 万円の増加に伴うものである。また第 1 種試験について、講習会オンデマンド及びオンラインでの試験費用として 300 万円が発生する。さらに、COVID-19 感染対策費用として追加で 138 万円が発生することが報告された。

また、感染拡大に伴い、第 2 種試験が実施できなかった場合に発生するキャンセル費用について報告された。料金が最大となる場合（会場キャンセル料：100%）は 5900 万円、最小の場合（会場キャンセル料：50%）は 4370 万円の支出が新規に発生することが報告された。

5900 万円の支出が発生した場合の補填について、現状、事業安定化資金から 2200 万円の補填は可能だが、残り 3700 万円の手当が必要となる。COVID-19 の現状に鑑みて試験実施は可能であると考え、また、万が一会場で実施できない場合は各養成校での実施も想定している。この場合は試験収入を確保できるため、キャンセル料の補填が可能である。また、昨年試験中止により受験できなかった分の受験者が増加する可能性が高く、さらに第 1 種試験はオンライン実施であり移動を伴わない受験が可能となるため、こちらも受験者数の増加が見込める。さらに、受験費の値上げも行ったことから、受験料収入は増加見込みである旨が報告された。また最悪の場合でも、学会の基金を集めることにより、3700 万円は補填可能である旨も報告された。なお、本年度の試験を中止する場合は受験料返金を行う予定であり、次年度試験受験料への繰越も意見としている。養成校等を卒業して受験する必要がなくなる人が発生する可能性も考慮して決定したい旨が報告された。

以上より、予算案については全会一致で承認され、状況次第では 3700 万円を他の学会基金より補填する必要が出てくるため、状況に応じて理事会で共有、対応していくこととした。

3. 編集委員会の予算修正案【審議 B-3】 横澤理事

第 3 回理事会において、編集委員会の予算案について 2 点の変更が行われた。1 点目が ABE 掲載料の一部調整、2 点目に和文掲載誌における英文校正の中止である。その点を修正した予算案について報告され、全会一致で承認された。

4. 2021 年度予算案の報告・承認【審議 B】 中島 一樹理事

各委員会、各支部の 2021 年度予算案について報告された。本予算案のうち、試験事業収入の収支について、本理事会で承認された予算案を基に再計算する旨が報告された。また、各表の期間が 1 年ずれて記載されているため、その点を修正するよう報告された。

以上より、修正点を含め内容をもう一度精査した上で、メール審議により承認する事で決定された。本メール審議は3月末までに行われ、その内容を基に内閣府に提出する予定である。また、事業計画も同時に提出する必要があるため、未提出の場合は至急日本生体医工学会事務局へ送付するよう連絡された。学会事務局が未提出の委員会を確認し、各委員会へリマインドすることとした。

5. 生体医工学および ABE の投稿規定修正案【審議 F】 横澤理事

生体医工学および ABE 誌について、投稿規定の修正案が報告された。これは利益相反申告書の変更、及び ABE 掲載料の調整が行われたため、それに伴う投稿規定の変更が必要になったためである。また、本規定修正に伴い、文章の修正が行われた。

本修正案について、全会一致で承認された。

6. 2020 年度 専門別研究会評価委員会 報告【審議 R】 原口理事

全 18 の専門別研究会の報告と次年度計画に基づき、3 名の評価委員による年度末評価が行われ、その内容に基づき、来年度の補助金配分案が提案された。評価基準について、本年度に限り、下記のような変更が行われた。

- ・前年度に 2 回以上かつ予定回数以上開催し、かつ次年度大会オーガナイズドセッションを予定していれば、算定用回数を 1 つ増加（根拠規定：第 24 条の「別途定める予算算出方法」、2020 年 6 月に専門別研究会に通知済み）
- ・研究会開催計画策定時（2020 年 1 月）には COVID-19 の影響を十分に予見できなかった状況に鑑み、2021 年度に限っては 2020 年度の開催回数を考慮せずに予算額を決定（来年度の計画に基づき配分）

また、1 件の新設置研究会、4 件の再設置研究会について、生体医工学誌での研究会紹介の執筆を依頼予定である。

本件について、研究会会長は日本生体医工学会会員である必要があり、各会長が会員か確認を行う旨が報告された。また事業報告書が未提出の精神・睡眠医療と ME 研究会、fNIRS 計測・解析技術委員会について、提出の催促を行うよう連絡された。

以上の審議を受け、本提案について、全会一致で承認された。

7. 第 60 回大会の準備状況と合同開催の覚書の改定について【審議 T】 椎名理事

第 60 回の本生体医工学会大会の準備状況について報告された。第 3 回理事会の決定に基づき、現地開催とオンライン開催とのハイブリッド方式で開催準備を進めている。開催方式の変更、予算案の変更に伴い、共催の日本生体磁気学会の確認を取り、会場、及び運営経費の扱いについて、再度詳細に検討することとした。

会場については、京都大学 百周年時計台記念館に変更する。これにより会場費を約 200 万円抑

えられる。また運営経費の配分方法について、収入は、各学会における本部からの助成金を除いた金額を両学会の会員数比で按分し、それに各学会の本部助成金を加えたもの、支出は、全ての項目について、会員数比で按分するものとした。本内容について、黒字は確保できており、また、日本生体磁気学会側の承認は得られている。

本内容について、全会一致で承認された。現時点で一般演題が 392 件であり、例年の 400-500 件までの伸びを期待するため、演題登録締切を再延長することとし、また、本年度は授賞式も行う予定であり、開会式や閉会式、もしくは総会で、現地参加可能な受賞者に参加して頂く予定である旨も報告された。

8. 第 59 回大会 収支決算報告【審議 O】 成瀬副理事長

昨年度に開催された、第 59 回日本生体医工学会大会の収支決算について報告された。公認会計士の確認済みであり、収入合計は 14,433,433 円、支出合計は 14,433,433 円となり、オンライン化に伴う会場のキャンセル料は発生しなかった旨が報告された。併催した APCMBE で発刊する IFMBE Proceedings が現在最終段階であるが、追加費用は発生しない見込みである旨が佐久間理事より報告された。また、第 59 回大会の有料参加者人数は、APCMBE の人数を合わせても 543 名であったことから、第 60 回大会で目標参加人数としている 600 名が困難である可能性が指摘された。これに対し、第 60 回大会は現地でも開催予定でありより多くの集客が見込めるため、目標人数の達成が可能である旨が報告された。

本収支決算内容について、全会一致で承認された。

9. 役員候補者選挙 結果報告【報告 L-1】 塩澤理事

2021・22 年度理事・監事選挙開票結果について報告された。投票率は前回の 44%から増加して 67.1%であり、全て有効投票であった。投票結果、及び規定に基づき、合計 9 名の理事候補者、2 名の監事候補者が選出され、全会一致で承認された。

10. 理事会推薦役員について【審議 L-2】 守本理事長

2021 年度の理事会に対する 2021・2022 年度理事候補について、会務の継続性を目的として定款 21 条第 3 項に基づき、木村裕一先生を理事会推薦の理事候補としたい旨が報告され、全会一致で承認された。

11. 第 60 回大会に対する日本臨床工学技士会専門単位の認定について【報告 S】

木村副理事長

日本生体医工学会主催の大会、シンポジウムに出席することで、日本臨床工学技士会が臨床工

学技士に対する専門資格の認定、継続の単位取得を認めている。第 60 回大会についても日本臨床工学技士会に申請を行い、単位認定が行われることについて承認が得られた旨が報告された。またそれに伴い、日本臨床工学技士会が第 60 回大会を後援する旨も承認された。大会 3 日目において、認定単位用シンポジウムが開催される予定である。

本内容について、全会一致で承認された。

12. TMS（磁気刺激）SubWG の新設について【報告 Q】 木村副理事長

医工学の萌芽的研究にも臨床研究法（以下、法とする）が適用され、医療機器から、臨床応用を強く意識していないヘルスケア領域の研究までの広範囲の医工学研究が停滞している。現在、臨床研究法 WG（以下、WG とする）（WG 長 京都大学の黒田知宏先生）を中心として、生体医工会及び医工学関係の諸学会との合同で、当該の研究が臨床研究法で定義されるところの臨床研究に該当するか否かを判断するためのガイドラインを発出した。

その中では、特定の研究領域における人体に対する操作が医行為ではないと見做す範囲を規定する必要が在ることから、これまでに、電気刺激、福祉機器等で使用される機械的な介入における範囲を規定し、生体医工学誌より論文として公開してきた。引き続き今回は、3 つ目となる、磁気刺激（TMS）に関する医行為ではないと見做せる刺激の範囲を検討するための分科会を、WG の下に設置することが報告された。研究領域毎の医行為ではないと見做せる刺激等の範囲についての検討は、生体医工学誌に招待論文として掲載すると共に、学会 HP より公開する。

TMS に対する検討について、日本脳神経外科学会から同等のガイドラインが出ていないかというコメントが在ったが、これに相当するものは存在しないことを確認した。尚、神経内科系の学会については、今後確認していく必要が在ることを確認した。

WG の今後の戦略についての質問があり、以下の説明が為された。

2022 年度に法を改正することが法に定められていることから、現在国では、改正案についての検討が進んでいると共に、施行規則については 2021 年度中に一部が改正される可能性がある。

改正を審議している厚生科学審議会 臨床研究部会では、正に法が医工学研究に対する悪影響を及ぼしていることが議論の対象となっており、その改善案として、学会ガイドラインが挙げられていることは、WG 及び学会の活動が奏効している証であろう。

現在 WG では、法改正の審議に関わっている関係各所と議論を行う体制を構築しつつあり、医工学研究、特に萌芽的段階にある医工学研究の遂行を妨げない方向での法改正の実現に向けて、WG として取り組みつつあることが説明された。

本内容について、全会一致で承認された。

13. 各種学会主要選奨の進捗報告【報告 K】 松村理事

2020 年度の論文賞・阪本賞、新技術開発賞、臨床応用研究賞・荻野賞の選奨候補者が報告され、研究奨励賞・阿部賞については集計が完了していない旨が報告された。受賞者の表彰は京都大会で行うこととし、受賞者が現地参加可能な場合は表彰式を実施予定である旨が椎名大会長より報

告された。

臨床応用研究賞・荻野賞については、選奨委員長と選奨候補者の所属が同じであることが内閣府の監査で指摘される可能性があるため、問題がない旨を記載すべきであるとの意見があり、松村理事に取りまとめて頂く方法を取り文面を作成することとした。

研究奨励賞・阿部賞については総会までに決定していればよいが、例年3月の理事会で決定して受賞者に総会出席を依頼するため、なるべく早期に決定して頂きたい旨報告され、3月中にメール審議を行うこととした。

本内容について、全会一致で承認された。

14. 日本生体医工学会北海道支部支部長の推薦【審議 U-1】 清水北海道市部長

北海道支部の次期支部長として、北海道大学の橋本俊朗先生を推薦したい旨が報告され、全会一致で承認された。

15. 日本生体医工学会東海支部支部長の推薦【審議 U-5】 長谷川東海支部長

東海支部の次期支部長として、藤田医科大ばんだね病院の渡邊英一先生への支部長交代の報告が行われた。本件について、2020年10月の支部会・幹事会で支部決定済である旨が報告された。

本内容について、全会一致で承認された。

16. 2021年度契約について【審議 H】 中島 章夫理事

ME試験事業を委託しているCEコーポレーションとの、2021年度の業務委託契約書及び覚書の内容について報告された。昨年度からの大きな変更は無い。

本件について、第1種ME試験のオンライン開催への変更に伴う、CEコーポレーション側の負担の増加について議論された。これについて、オンライン関連については別途委託、発注を行い、「試験オンライン費用」として300万円を計上した旨が報告された。

本内容について、全会一致で承認された。

17. 入退会承認審議【審議 A-3】 山家理事

会員入退会状況について報告された。入会希望が正会員6名、準会員1名で、退会希望が正会員4名、準会員4名であった。入会にあたり、推薦者欄が空欄であった正会員1名は理事会で審議した。また、入会希望に重複があったため修正された。

本内容について、全会一致で承認された。

18. 支部補助金【報告 U-2】 中島 一樹理事

各支部の補助金について、計 280 万円を各支部に 10 万円ずつ配分し、残額の 190 万円を支部会員数で按分する旨が報告された。本件について、次年度以降は財務委員会が理事会前に事前審議することとした。

本内容について、全会一致で承認された。

19. 術中 MRI 保険適応申請学会要望書に関して【報告 A】 村垣理事

前理事会で承認された、日立製作所の術中 MRI の C2 新機能・新技術申請の要望書について、厚労省に提出予定である。日立製作所には会員企業になっていただき、日本術中画像情報学会等と連携しつつ日本生体医工学会から提出する文面の作成および確認中である旨が報告された。

20. 前理事生田幸士先生の受賞に関して【報告】 佐久間理事

前理事の生田幸士先生の 1980 年代の業績に対して IEEE Robotics and Automation Society Award が授与されたことを受け、日本生体医工学会でも先駆的な取り組みに対して表彰する制度を設立することについて提案された。若手の先生にエントリーしていただき、補助やクラウドファンディング等を行い、5 年あるいは 10 年後に表彰し、再度補助するような仕組みがあってもよいとの意見があった。理事長から、次代の若手をつないでいく賞にフォーカスしたく、理事会の審議案件として提案されれば正式に取り組みたい旨意見があった。

以上

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____